

目 次

刊行によせて

凡 例

第 1 章 刑法の基礎と基本的概念	I
I 刑法とその周辺領域	I
II 刑法の課題	2
III 刑法の体系	4
IV 刑法規範の構造	4
V 罪刑法定主義	5
VI 刑法の適用範囲	12
VII 犯罪の種類	15
VIII 犯罪論の体系	17
第 2 章 作為と不作為	20
I 行為論	20
II 作為と不作為	22
III 不真正不作為犯と罪刑法定主義	22
IV 保障人的地位	23
V 作為の可能性	31
VI 不作為の因果関係	32
VII 不作為犯の検討プロセス	33
第 3 章 因果関係	34
I 因果関係とは	34
II 事実的因果関係	36
III 法的因果関係	41

第4章 故意	52
I 故意の意義と体系的地位	52
II 故意の内容	54
III 故意の種類	59
IV 故意と過失の区別	60
第5章 過失	64
I 過失犯とは	64
II 刑法における過失犯の構造	66
III 過失犯の成立要件	70
IV 個別的問題	76
第6章 違法性論の基礎と正当防衛	79
I 違法性論の基礎	79
II 緊急行為	84
第7章 過剰防衛、緊急避難	96
I 過剰防衛	96
II 緊急避難	101
第8章 被害者の同意	112
I 被害者の同意の体系的地位	112
II 被害者の同意による違法性阻却の根拠	114
III 有効な同意とは	116
IV 同意傷害	120
V 錯誤に基づく同意	121
VI 同意と関連する問題	123
第9章 責任論	126
I 責任とは	126
II 責任能力	129

Ⅲ	原因において自由な行為	132
Ⅳ	不法の認識の可能性	137
Ⅴ	適法行為の期待可能性	138
第10章	錯 誤	140
Ⅰ	錯誤とは	140
Ⅱ	事実の錯誤と違法性の錯誤	140
Ⅲ	事実の錯誤	141
Ⅳ	違法性の錯誤	156
第11章	未 遂	162
Ⅰ	未遂犯	162
Ⅱ	不能犯	169
Ⅲ	中止犯	173
第12章	正犯と共犯の区別	178
Ⅰ	共犯の意義	178
Ⅱ	正犯と共犯	179
Ⅲ	狭義の共犯の処罰根拠	186
Ⅳ	共犯の従属性	192
Ⅴ	正犯と共犯の区別基準	194
第13章	共同正犯と間接正犯	197
Ⅰ	共同正犯	197
Ⅱ	間接正犯	204
第14章	共犯の諸問題	214
Ⅰ	共犯と身分	214
Ⅱ	共犯と錯誤	219
Ⅲ	承継的共犯	222
Ⅳ	共犯関係の解消（共犯からの離脱）	225

第15章 罪数論, 刑罰論 230

I 罪数論 230

II 刑罰論 242

事項索引

判例索引